



すぎ七

杉並区立杉並第七小学校

校長 齋藤 瑞穂

TEL 3392-6328

FAX 3393-7536

令和2年11月2日 No.517

「新しい日常」が「日常」となる未来

校長 齋藤 瑞穂

連日猛暑の続く8月終わりに始まった2学期も、早いもので半分が経過しました。新型コロナウイルスに激しく揺さぶられた2020年も終わりが見えてくるとともに、杉七小の子供たちもウィズコロナの「新しい日常」に徐々に馴染んできたように感じます。毎朝の検温、マスクの着用、手洗いは定着し、給食も黙々食べています。距離をとることを忘れてしまう瞬間もありますが、最近は子供同士で気付いて注意し合う姿も見られるようになりました。子供たちの適応力の高さは大人の想像を超えてたくましいものだなあとつくづく思います。考えてみれば、今、通学している子供たちの人生にとっては、新型コロナ後の方がはるかに長いのです。「新しい日常」から「新しい」が取れるのも時間の問題でしょう。

さて、今学期は、体験学習や学校公開も再開しました。地域巡りや戦争体験のお話を聞く会など、感染予防対策を講じながらほぼ以前と同じ形で行ったものもありますし、体育的行事のように従来の「運動会」とは大きく形を変えて実施したものもあります。

今年度初めての学校公開（保護者参観）になった10月の体育的行事は、大変多くのご来校をいただき、それに応えて子供たちも学習の成果を十二分に発揮して、充実した時間となりました。運動会の代わりとすれば不足も多かったかと思いますが、保護者の皆様からの感想アンケートには、温かい励ましやお褒めの言葉をたくさん頂戴しました。

また、30日には、移動教室代替行事として、5、6年生が富士方面に出かけました。



久しぶりの校外学習に、子供たちは目を輝かせて実に熱心に取り組みました。振り返りでは、「久しぶりにみんなと一緒に弁当を食べられたのがうれしかった」という感想もあり、少し切ないような気持ちもしつつ、引率した教員一同、代替行事を実施してよかったという想いを強くしました。

入学式や卒業式のような儀式的なもの、移動教室のような校外学習、学習成果を発表する発表会的なもの等々、行事もいろいろありますが、時間割通りの学校生活では得られない特別な楽しさや喜び、行事へ向けて努力したことで得られる達成感や感動は、子供たちの大きな成長を促します。「行事を通して子供は育つ」とは、学校現場に携わる誰もが実感しているところです。一方で、発表型の行事では、より良いものにしようと指導や練習に力が入りすぎて子供たちも教員も疲れてしまったり、平常と違う動きで落ち着かなくなる子供が増えたりという実態もあります。「行事の精選」はコロナ以前から学校の大きな課題でした。

子供たちにとって本当に必要な行事は何か、その行事をするためにはどんな工夫が必要か、準備期間をどれくらいとればよいか——コロナ禍の中で、今年度はこれまでの慣例をリセットしてゼロから向き合わなければならなくなりました。已むに已まれずとはいえ、同時に課題解決の大きなチャンスでもあります。前向きな検討を重ねていきたいです。

ウィズコロナは日常化し、さらに予測不能な未来を子供たちは生きていきます。行事に限ったことではありません。そんな子供たちにとって、身に付けなければいけない力とはどんな力か、その力を学校はどのように子供たちに授けるか、学校は常に自問し続けて、よりよい教育活動のために前進しなければなりません。皆様のさらなるご理解、ご支援をお願いいたします。